

2024（令和6）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会はローマに本部を置く世界宣教を使命としているカトリック女子修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長 Sr マリー・デュ・ムスチェ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951 年（昭和 26 年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観に基づく全人教育の場の実現を目指しています。

(2) 学校法人の沿革

1951（昭和 26）年

学校法人海星女子学院設立認可

海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和 27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和 28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和 29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和 30）年

海星女子学院短期大学英語科設置

海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和 37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和 39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更

福岡海星女子学院中学校・高等学校設置

（福岡）マリア幼稚園を法人統合

海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に名称変更

1965（昭和 40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和 41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和 43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和 55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和 59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成 10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成 12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成 16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成 20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成 24）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部観光ホスピタリティ学科を募集停止

2014（平成 26）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

2024（令和 6）年

神戸海星女子学院大学を募集停止

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2024 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	0	285	120
神戸海星女子学院高等学校	150	450	387
神戸海星女子学院中学校	150	450	446
神戸海星女子学院小学校	50	300	313
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	278

(5) 教職員の概要

(2024 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教員	本務	0	17	20	24	22	18	104
	兼務	0	42	13	20	6	13	109
職員	本務	7	10	3	2	1	3	29
	兼務	0	7	1	3	3	2	16

(6) 役員に関する事項

① 役員名簿

定員数 理事 8 名、監事 2 名

(2024 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	野手 数弘	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	芝山 豊	常 勤	カトリックセンター長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

【参考】(2025 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	森田 和子	常 勤	
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	野手 数弘	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	芝山 豊	常 勤	カトリックセンター長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	仲尾 彰記	非常勤	

② 責任限定契約の状況

- 私立学校法に従い、令和 2 年 4 月 1 日より責任限定契約を締結した。
- 対象役員の氏名
非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、仲尾彰記）
 - 契約内容の概要
非業務執行理事及び監事とその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円と、役員報酬の 2 年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

- 私立学校法に従い、理事会決議により令和 3 年 4 月 1 日から役員賠償責任保険に加入した。
- 保険者
東京海上日動火災保険株式会社
 - 被保険者
記名法人 学校法人海星女子学院
個人被保険者 理事、監事、評議員
 - 補償内容
役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等
記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用
 - 支払い対象とならない主な場合
法律違反に起因する対象事由等
 - 保険期間中総支払限度額
3 億円

（7）評議員の概要

定員数 17 名
(2024 年 5 月 1 日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	野手 数弘	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
井上ふき子	中・高教頭	熊野 公子	
市川 憲子	中・高教頭	山田喜美子	
芝山 豊	カリックセンター長	森田 和子	
石倉 哲也	小学校教頭	村田 博	
若林 洋子	小中高 事務長	梶田 行雄	
石原 敬子	大学長		

【参考】（2025 年 5 月 1 日現在）

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
井上ふき子	中・高教頭	熊野 公子	
市川 憲子	中・高教頭	山田喜美子	
芝山 豊	カトリックセンター長	森田 和子	
石倉 哲也	小学校教頭	村田 博	
石原 敬子	大学長		
野手 数弘	中学校・高等学校校長		

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

1. 広報活動

ホームページやSNSを通じてさまざまな学内活動の発信を継続した。

2. 各学科の教育活動

① 英語観光学科

学生達が主体的に関わるプログラムを実施した。2年・3年次生対象に神戸歴史観光フィールドワークを実施し、神戸市内にある五色塚古墳、旧木下家住宅主屋、孫文記念館（移情閣）などを学生達が事前に調査し、当日担当施設ごとの案内を行った。観光ゼミにおいては鳥取県境港にある水木しげるロードでのアンケート調査や観光案内所でのインタビュー調査を行った。また鳥取県南部町で農家民泊を行い、南部町農家民泊を推進している観光協会の会長へのインタビュー調査を行い、その結果を海星フェスティバルで発表した。

② 心理こども学科

各授業において学生一人一人と真摯に向き合い、細やかな指導を重ねた。毎年施行している灘区との連携事業である「海星子育てひろば」には10名の4年次生が意欲的に取り組み、大きな経験と成果を得た。そして、「海星☆心理こども学科フェスティバル」は、両学科合同開催で「海星フェスティバル」と改め2月に実施した。例年とは違う視点で鑑賞し、互いの学科の学びを理解し合い知見が広がった。また、保育士を目指す学生を対象にした手作りおもちゃコンテストで、HOPPA審査員賞を受賞した。これは「学外に視野を向ける」「学外の機関とつながる」という2024年度の新たな目標の第一歩になった。さらに、4年間の学びを深め研鑽を積みたいと望む学生の中から4名が大学院進学の実現させた。

③ 教職課程

教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座、就職体験発表会を開催し、筆記試験・実技試験・面接試験に向けて集団及び個別指導を行った。

学校法人国際学園星槎大学との協定による特別支援教育免許取得課程を1名が修了した。

3. キャリア支援

学年ごとに段階的な支援を行い、4年次生の進路決定につなげた。2024 年度大学全体の就職率は昨年につき 100%（前年度 100%）であった。また、2年次生全員に早期キャリア形成に繋げる進路相談会を個別面談にて実施した。

秘書技能検定講座等、学年を問わず参加できる複数の資格取得支援講座（学外提携講座を含む）をオンラインで開講した。また 6 月に開催した教育懇談会に合わせて学生・保護者の個別面談を実施した。

4. 生涯教育、地域交流・貢献等

① 生涯学習講座

「英会話（初級・中級）」、「フランス語会話（中級・中級～準中級）」、「関西文化に育まれた文学」、「フラを通して学ぶハワイの歴史と様々な伝統文化」、「記憶の心理学」、「英語発音講座」、「子どもの理解を深めよう！」の 9 講座を開講し、127 名が参加した。

② 公開講座

本学准教授の一尾敏正先生が講師を務め、「日本ホテル物語～明治以降の社会とホテル業の変遷～」と題して 11 月 9 日に実施した。

③ 海星子育てひろば

「大学と連携したまちづくりチャレンジ助成金」の交付を受け、心理こども学科の教員及び「地域子育て支援」を受講する学生による「海星子育てひろば」を計 7 回開催した。地域の親子 15 組が参加した。

④ 「キッズイングリッシュ」関連の地域交流・貢献活動

「キッズイングリッシュ」の担当教員が協定校の神戸市立美野丘小学校で英語の授業を行った。（全 2 回）また、「Kids English クラブ」の学生が神戸市灘区住之江公民館での「子供英語教室」（全 7 回）を担当した。

⑤ 地域における教育・文化・福祉等の活動に関する事項

神戸市との連携講座である「こうべ生涯学習カレッジ」に加え、外部依頼としては、兵庫県 1 件、明石市 7 件、神戸市 2 件、宝塚市 1 件（8 回）、芦屋市 2 件（3 回）、西宮市 1 件、その他教育機関 22 件などからの要望に応え、本学教員が専門的知識を広く社会に還元し、地域に貢献していった。

5. グローバル人材育成に向けた取組み

① 短期留学

短期留学に3名が参加した。内訳は、オーストラリア語学研修1名、ハワイ語学研修1名（各英語観光学科）、オーストラリア幼稚園アシスタントティーチャープログラム1名（心理こども学科）である。

留学前には、留学参加者の不安軽減のために、留学帰国生と留学希望者との交流会を実施した。これにより、帰国生も自身の留学を振り返る機会となり、また学年や学科を超えた交流を持つ機会にもなった。さらに、「留学準備オリエンテーションハンドブック」を作成し、各学生の不安を聞き取りながら留学中の心得及び注意事項などを詳細に説明したり、危機管理オリエンテーションを個別に実施したりするなど、丁寧に事前準備を行った。

② 留学支援金

留学支援金制度により、申請のあった2名（英語観光学科）の学生に対して支援金の支給を行った。

6. キリスト教関連

① キリスト教研修

2年次はカトリック夙川教会で聖母マリアについての講演と音楽鑑賞、3年次は布引ハーブ園で神父によるアッシジのフランシスコについての講演、4年次はDVD視聴と大塚国際美術館の絵画を通じてキリスト教を振り返る機会及び卒業前に卒業感謝ミサに参加する機会を持った。

② 海星協力金

学期ごとに学生・教職員より一人500円ずつ集め、年度末に送金した。送金先は「日本キリスト教海外医療協力会」、「日本国際ボランティアセンター」等である。

③ キリスト教国内研修旅行（長崎）

長崎純心大学の協力のもと、4泊5日で研修を行い16名の学生が参加した。長崎でのキリスト教の歴史、核廃絶・平和への祈りというテーマで、長崎純心大学の先生方や有志学生から大きな学びを得る機会となった。

④ サンタガールズの活動

不要になった教科書やその他書籍を回収し、学内で中古販売、その収益を「サンタ募金」として灘区内の児童養護施設の子ども達に届けた。

⑤ ミッション・シネマの会

昼休みの時間を利用して、キリスト教の影響を受けた人物や出来事について学ぶ機会を設けた。春学期は映画『この子を残して』、秋学期は『医師 中村哲の仕事・働く

ということ』のDVDを鑑賞した。

7. 学生支援

① 学生アンケート実施

春学期は学内行事や学内設備、心身の健康状態について、秋学期は学修活動について及び学内設備の利用状況について主に調査した。心身に不安を抱える学生が少なくないため、心身の健康を維持するために心掛けていることについての回答を学生にも開示した。また学内環境に対する学生の満足度を保持するため、要望のあったスマホの充電器や衛生用品の常設、コモンルームの雑誌の変更などを遂行した。そして、課外活動に関心を持つ学生を支援するため、2025 年度に向けて、学生の学外活動支援金制度を確立した。このように学生の実態を把握し、速やかに対応に移すことに役立てている。

② 学生が主体となるイベント実施

学生生活は授業・学内だけでなく教室の外でも形成され、そこでのコミュニケーションや経験もまた学生の成長を促す要素となる。学生数の減少から日常的に接触する人が限られてしまう現状も鑑み、学生同士や教員との談笑の場として学期末に茶話会を設けた。

③ 合理的配慮が必要な学生の支援

前年度に引き続き、学生サポート委員会・教務部・学生部・学修支援室 Stella・学生相談室 Maris・保健室・専門相談員（精神保健福祉士）・担任の連携による学生支援を行った。学生一人一人の現状や特性の把握に努め、チームで共有し、小さな大学ならではのきめ細やかな支援を実施している。

8. 自己点検・評価

学科・委員会ごとに年度の達成目標を設定し、1年間をかけてPDCAの点検を行い、報告書にまとめた。

9. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学 研究紀要』第 63 号、『言語文化研究』第 8 号（本学言語文化研究所発行）をそれぞれ 2025 年 3 月に発行した。

(2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

1. 中学校生徒募集と広報活動について

① 中学校生徒募集

出願者数はA日程 103 名、B日程 132 名、受験者数はA日程 99 名、B日程 125 名であった。出願者数は昨年度と比べてA日程 54 名減、B日程 3 名減、受験者数はA日程 47 名減、B日程 2 名減で、B日程は昨年度とほぼ変わらなかったが、A日程においては昨年度より大幅に減少する結果となった。追試験は今年度も実施しなかった。

② 大学入試結果

2024 年度の国公立大学合格者数は 46 名（現役 35 名）で、現役合格者数は昨年より 7 名減少し、総数も昨年の 61 名より 15 名減少した。旧帝国大学及びその他難関大学については、京都大、大阪大、神戸大で計 12 名（現役 11 名）、医学部医学科に関しては、国公立・現浪合わせて 24 名（延べ人数）、その中には神戸大学医学部医学科 1 名が含まれる。

③ 広報活動

2024 年度も教員による塾訪問を行った。また塾の各教室が主催する保護者対象の説明会では時には生徒と一緒に参加した。教員からのスライドを用いた説明だけでなく、生徒たちの生の声を届けることで、より海星の魅力を伝えることができた。

初めての試みとして、9 月になでしこホールで「いま、なぜ女子教育か」という学校長による講演会が行われ、卒業生 2 名とともに海星と女子校の魅力を来場者に伝える機会となった。

校外の相談会、私学連合会主催、業者主催の合同説明会はほぼ従来どおり実施され、本校もできるだけ積極的に参加した。校内では学院祭で多くの受験希望者に見学の機会を提供することができた。オープンスクールに関しても、在校生による校内案内や体験授業、部活動体験、ポスターセッションなど、生徒と直接触れ合いながら学校生活を体験する機会を増やした。昨年度発足した生徒広報班のメンバーの発案により、海星すごろくや制服を着て写真を撮るなど、来場者を楽しませる工夫がなされた。体育祭も事前予約を受け付け受験希望者に開放した。秋には弦楽アンサンブル部によるオータムコンサートと 2 回の入試説明会、4 回の学校見学会をすべて予約制で行った。学校に足を運んでいただく機会をできるだけ増やすことで、生徒たちが実際に活動する姿を見て本校の雰囲気を肌で感じていただくことができた。

外部メディアを利用した広報は、例年どおり受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンラインやみんなの中学情報口コミサイト等、ネット媒体を活用した広報活動に注力した。また、昨年度開設した公式インスタグラムでは、生徒たちが生き生きと活動している姿を日々発信している。「真理と愛に生きる」という学院の理

念を具体化するために、引き続き「学び続ける力を養う 6 年間」を掲げ、卒業後も社会で活躍できる生徒を育てる学校として広報活動を行っている。

2. 学校納付金等について

授業料に関しては、中 1 から高 3 まで 66 万円である。教材費預かり金に関しては、2024 年度卒業生については多少の不足金が生じたが、その不足分は学校負担とした。積立金に関しては、29,518 円の余剰金が発生したため、保護者に事前通知の上返金した。

3. 教育活動について

① 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」と、「生徒の希望する進路の実現」を 2 つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中 3 からは高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中 3 の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

② 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施

中 2 のネイティブ教員による英会話の授業を継続実施した。1 クラスを均等 3 分割、生徒 11～12 名に対して 1 人のネイティブ教員という少人数授業であり、外国語学習にとって理想的な環境である。中 3 数学においては昨年度に引き続き、習熟度に応じた 3 クラス編成（標準 2 クラス・発展 1 クラス）、中 3 英語は 2 クラス 3 分割編成からホームルーム単位の授業にした。これにより、気心の知れた生徒同士でのより活発な言語活動や中位層のレベルアップを目指した。

高 1 と高 2 の英語については、標準・発展の習熟度別 2 クラス編成、高 2 数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に 2 分割し、個人の学力に見合ったより効果的な授業を実施した。

③ 成績不振者対策

中学生に関しては、定期考査ごとに成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。これとは別に、中 2・中 3 の英語と数学に関して、更なる基礎力の向上と全体的な底上げを期して、定期考査の成績が一定の基準に達しなかった生徒（下位約 20 名）を対象に「特別指名補習」を放課後に週 2 回程度実施した。

④ 放課後学習サポートシステム

「スクール T O M A S」と提携して、低～中位層を対象（希望者・有料）に自学自習

のサポートシステムを 2022 年度 2 学期より利用している。対象学年は中 1～高 2、教科は英語・数学・国語・理科・社会。形態としては「質問型個別指導」を基本に、オプションとして、「カリキュラム型個別指導」、「A I 型個別指導 atama⁺」、「オンライン英会話 (Native Camp)」が用意されている。

⑤ 特別活動、宿泊行事

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕的活動を行い、心身の健全な発達を図った。

中 1 は、6 月に「イングランドの丘」(南あわじ市) への遠足を実施した。10 月には社会福祉協議会の方にご来校いただき、ユニバーサル体験学習を行った。また芸術文化センターで開催された「わくわくオーケストラ教室」に参加した。

中 2 は、6 月に「休暇村蒜山高原」で 2 泊 3 日の体験合宿を実施した。また、11 月には灘さくら支援学校を訪問し、生徒と交流を図った。

中 3 の異文化理解合宿に関しては、10 月に「グランドニッコー」(淡路市) にて、協働型体験プログラム「グローバルビレッジ」(LbE Japan 主催) を実施した。SDGs の学習を起点に、様々な文化背景を持つ留学生との交流を通して、国際的視野を培養し、多様な価値観・異文化への理解を深めた。また、11 月に企業訪問を実施し、グループに分かれて竹中工務店・沢の鶴・シスメックス・日本銀行の 4 社を訪問した。その後 2 月に事後学習として、振り返りのプレゼンテーションを各社の担当者を本校に招いて実施した。

高 1 では 6 月に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。高 2 では 10 月に 6 泊 8 日のフランス修学旅行を実施した。高 3 では 5 月に「ユニトピア篠山」にて 1 泊 2 日の静修合宿を実施した。

中 1～高 2 の各学年の静修は従来どおり 3 学期に校内で行った。

⑥ 体育祭

9 月に従来どおりの形で実施した。

⑦ 高Ⅱ修学旅行

異文化理解教育の集大成として、建学の精神であるカトリックの心に触れることを目的に 2024 年度もフランス修学旅行を実施し、パリ、リジュー、モンサンミッシェルに宿泊した。初めての訪問地となるモンサンミッシェルにおいてグループ A とグループ B が合流し、昼食をともにした。ルーブル美術館、エッフェル塔、ベルサイユ宮殿といった観光地を訪問したほか、ベック大修道院ではミサにも参列した。

⑧ 海外研修・国内英語研修

2019 年度以来で「イギリス語学研修」を再開した。「オーストラリア交換プログラム」は 2025 年度より再開することになっており、それに代わるものとして、昨年度に引き続き「グローバルスタディーズ」(I S A 主催) を中 3・高 1 の希望者対象に 8 月の 5 日間本校で実

施した。

⑨ ICT教育

Google 社の『Google Workspace』を使用した各授業での教材提示及び情報提供は浸透・定着している。Chromebook の使用頻度もさらに高まり、自宅のみならず学校においても様々な場面で積極的に活用している。また、教員相互での利用率も一層向上し、朝終礼をはじめ、校務や職員会議等での諸連絡に大いに役立っている。

4. 学校評価について

(自己評価)

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した(資料1)。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

(資料1) 2024 年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

評価項目	評価
A教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3. 8
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	3. 9
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	3. 8
④目標とした内容が定着しているか	3. 7
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	3. 9
B校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	3. 7
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3. 7

C 担任業務

①生徒とのコミュニケーションが取れているか	4 . 0
②保護者との連携がとれているか	3 . 9
③学年内の連携がとれているか	4 . 3
④教科担任との連絡がとれているか	4 . 1

（３）神戸海星女子学院小学校

1. 小学校広報活動と児童募集について

受験生が複数名いる幼児教室と神戸海星マリア幼稚園で 2025 年入試に向けての説明会・講演会を複数回行った。また、入試後の 9・10 月には 17 の幼児教室を回り、入試報告を行い、同時に 1 月の転入学募集についての協力依頼をした。

12 月に、第 12 回の「兵庫県私立小学校フェア」が、兵庫県の私学 11 校が集まり東急 REI ホテルで行われた。海星小の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数 2 クラス制の良さなどの説明を行った。初めて本校のブースに来られる方も多く、これから受験する方に説明する良い機会になった。

2025 年 2 月に「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が行われた。参加者は多くはなかったが、本校の複数の教員が海星小について話す良い機会となった。

受験希望者に対して、4 月に授業体験会を実施し、学校での説明会を 5 月と 6 月と 10 月の 3 回実施した。第 1 回目の 5 月は、入学希望の保護者を対象に説明会を行い、70 組の方が参加された。第 2 回目の 6 月は、入学希望の保護者を対象に授業公開と児童による学校説明を行った。年長 42 組参加のうち専願 37 組と、厳しい結果だった。10 月の説明会では年中以下の保護者を対象に、授業公開と入試報告、6 年生による学校紹介を行った。この説明会からは、新しい企画として礼拝朝礼を見ていただくことと、「1・6 年生と遊ぼう」を企画した。6 年生がよくお世話をし、保護者にとっても説明会に集中できたと好評であった。また、1 月末には図工展を 2 部制で公開し、児童の作品を鑑賞してもらった。今年は、保護者にさらに海星小の児童の姿を見てもらうため、3 月の初めに 10 月と同じような公開授業と学校説明会、そして音楽朝礼を見ていただいた。

2024 年度は、公開授業や学校説明会のチラシを 1,000 枚、業者に依頼して作成し、各幼児教室やマリア幼稚園に送り、入学希望の方の手元に残るよう配布を依頼した。

その他の広報活動としては、10 月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや本校の機関紙「かいせい」を郵送した。その他、マリア様をたたえる会、運動会、学芸会、クリスマス会など、本校の児童の活動を見ていただけるイベントを月に 1 回企画し、案内した。

2025 年度入試は、50 名の募集に対し 46 名の志願者があり、45 名の合格者を出し、43 名が手続きをした。1 月には転入試験を行い、新 3 年 1 名、新 4 年 1 名を合格とした。2025 年度の児童数は、1 年生 39 名、2 年生 54 名、3 年生 48 名、4 年生 55 名、5 年生 55 名、6 年生 52 名、計 303 名となった。2025 年度も、どうにか学則定員 50 名×6 学年＝300 名を確保できた。

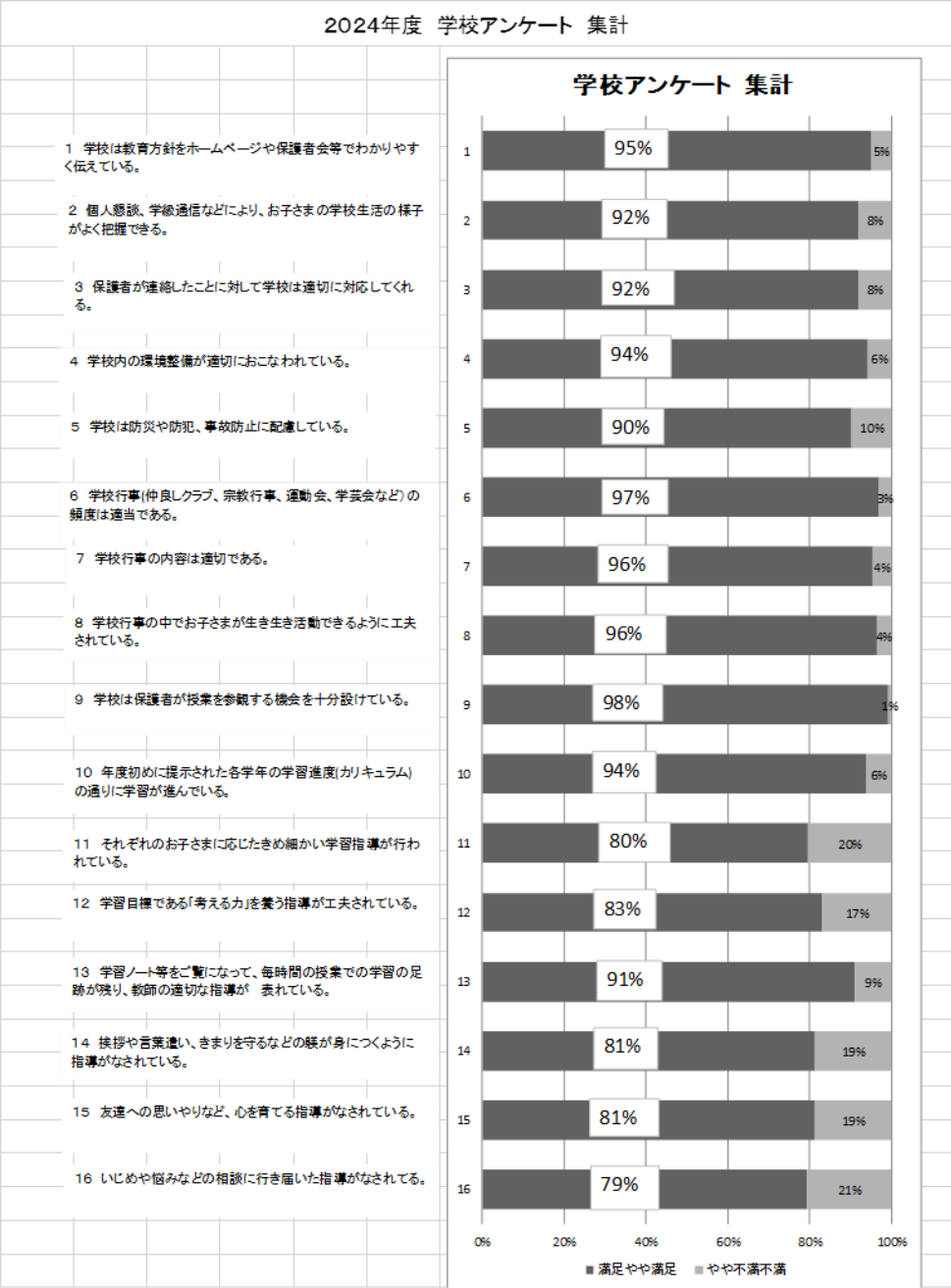
2. 学校評価（保護者）について

毎年 2 月に、保護者に対して無記名で学校評価アンケートを実施している。2024 年度は

225 名の保護者から回答をいただいた。（回収率 79％）（資料 1）

今年度は、すべての行事や授業参観を実施することができ、全体的に高い評価をいただいた。来年度は、学習指導については、子どもたち一人一人に学習する習慣や学力向上につながるような教員研修を充実させたい。生活面では、「友達への思いやり」や「いじめや悩みなどの相談」について、宗教教育が基礎にある本校にとって最も大切な部分なので、さらに教員全体で取り組んでいきたい。

（資料 1）



3. 学校評価（教員）について

次に、教員による自己評価についてである。2025 年度初めに昨年度の学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。2024 年度は、Aの学習指導・生活指導では、「カリキュラム」、「人間関係作り」の項目について自己評価が高くなった。Cの担任業務についても、「学級経営の方針を明確にし」という項目の自己評価が高くなった。Bの校務分掌については、今年度も「学年・他の分掌との連携」について自己評価が低いので、2025 年度は改善していきたい。

（資料2）2024 年度 学校評価（教員）

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
	①総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 9
	②個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3. 8
	③教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 9
	④設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	4. 0
	⑤個々の児童の学習内容が定着しているか。	3. 9
	⑥目標とした学習内容が定着しているか。	3. 7
	⑦同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3. 7
	⑧基本的なしつけやルール of 指導に努めているか。	3. 9
	⑨豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	4. 1
	⑩授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 7
B	校務分掌	
	①分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	3. 9

②関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。 3. 3

C 担任業務

①保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、
信頼関係を築いているか。 3. 9

②学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。 4. 0

③専科教員との連携が取れているか。 3. 8

4. 教育について

① 特色ある教育

(ア) 宗教教育

全校生毎週1時間の宗教の時間や、週1回(金)の礼拝朝礼、毎日の朝礼・終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」・「創立記念ミサ」・「クリスマス会」・「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(イ) 外国語(英語)教育

2024年度は、全校生週に3時間、うち1時間は教員3人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(ウ) 福祉教育

毎年5年生が訪問している老人ホーム(大池サンホーム)の訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。

(エ)「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間22時間実施した。

・1年生歓迎会	1時間
・春の遠足	6時間
・小運動会	4時間
・野外活動(布引ハーブ園)	6時間
・校外清掃	2時間
・カルタづくり	2時間

・ 6 年生とのお別れ会

1 時間

② その他の取り組み

(ア) 7 月、8 月の小学校校舎改修（南館）のため、1 学期始業式を 4 月 1 日とし、終業式を 6 月 29 日とした。授業時間確保のため 1・2 学期に土曜日授業を月に 1～2 回行った。

(イ) 4 月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学級保護者会を行った。6 月には日曜参観と学級保護者会を各教室で行った。9 月には 2 日間、夏休み作品展と合わせて授業参観を行った。12 月には学年保護者会を行い、2 月には 1～3 年生は学級保護者会、4 年生は誕生学の授業に続いて学年保護者会、5 年生は中高の市川・井上教頭先生から海星中学校・高等学校の生活についての説明を聞き、学年保護者会を行った。6 年生は、卒業発表の後に学級保護者会を行った。

(ウ) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に 1 回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した。また、新たに部会（宗教・生活・研究）と教科部会の集まりを月 1 回持った。

(エ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	2024 年度
2	学校合宿	小学校北館 (南館改修のため)	王子動物園、体育館でゲーム	日帰り 2 日間
3	校外活動	神戸市立自然の家 (六甲)	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	1 泊 2 日
4	校外活動	国立淡路青少年交流の家	砂の造形、藍染め、ストーンペインティング など	2 泊 3 日
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	3 泊 4 日
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島での民泊体験、平和祈念公園、平和祈念資料館、ひめゆり祈念資料館	3 泊 4 日

（４）神戸海星女子学院マリア幼稚園

１． 園児募集

① 2025 年度新入園児選考結果（2024 年 9 月実施）

- ・ 3 歳児入園

61 名応募中 57 名の合格者（合格者内訳：つくし・弟妹 27 名、外部 30 名）

- ・ 満 3 歳児入園

35 名応募中 33 名の合格者（合格者内訳：弟妹 15 名、外部 18 名）

- ・ つくし組（週 2 日 1 年間通う 2 歳児クラス）

31 名応募中 28 名の合格者

② 2025 年度予定園児数 312 名（3 学期末）

〈内訳〉 満 3 歳児 32 名、3 歳児 91 名、4 歳児 94 名、5 歳児 95 名

③ 選考方法

- ・ 3 歳児入園 …親子面接（志望動機、問答、手遊び等）

- ・ 満 3 歳児入園…親子面接（志望動機、問答、手遊び等）

ただし、弟妹はリトミック体験

- ・ つくし組…保育体験（リトミック）

④ 広報

園児募集活動の一環として、園の魅力を効果的に発信し、保護者の関心を高め、実際に園へ足を運んでいただくことを目的とした広報活動を行った。具体的な広報活動として、「ホームページ」、「ポスターの掲示」、「Instagram による発信」を行った。また、出願促進のための活動として、特に 2 つの取り組みに重点を置いて実施した。1 つ目は「ようちえんであそぼう」、これは定期的に実施し、保護者と子どもが実際に園で遊んだり、保育体験をしたりする中で、マリア幼稚園の雰囲気や教育方針に触れていただく良い機会となった。2 つ目は出願時期の入園説明会の工夫である。園の教育方針（モンテッソーリ教育・キリスト教に基づく保育）についての説明に加え、実際に保育を行う教職員の人柄や魅力の伝わる座談会形式の園紹介や在園保護者からの声を通じて、保護者目線での園の魅力を発信することで、マリア幼稚園をより身近に感じていただく工夫をした。

２．幼稚園を取り巻く現状を踏まえた重点課題

① 少子化に伴う園児獲得

少子化が避けられない状況の中で、園児確保を最重要課題と位置づけ取り組んだ。保育の軸である「モンテッソーリ教育」と「キリスト教に基づく保育」を本園の特色として明

確に打ち出した。また、「4 年保育」を見据え、特に満 3 歳児入園及びつくし組の園児獲得に力を注いだ。

② 安全・安心

2024 年度は安全・安心な保育環境が社会的にも話題になり、本園でも改めてそれらについて具体的に見直す機会とした。特に以下のような取り組みを行い、安全・安心な環境づくりを推進した。

・園バスの安全対策

安全確認装置を設置し、降車後には運転手、添乗教員、さらにもう 1 人のトリプルチェックを徹底した。また、バス委託業者との運転状況の共有を定期的に行った。

・不適切保育への対策

普段からそうしたことへの関心の感度を上げ、気づきを共有したり、教員研修等で保育の専門性、子ども理解、保護者対応についての学びを深めたりした。

・自然災害への備え

地震など突発的な災害に備え、通常の避難訓練に加え、突発性を意識した避難訓練を実施した。また、園内の備蓄品等についても見直し、必要なものを点検、整備した。

③ 魅力ある幼稚園教諭の確保

2024 年度の採用はなかったが、次の視点を意識した採用活動を行うこととした。

- ・子どもに寄り添う姿勢
- ・高い保育スキル
- ・人権感覚と安全意識
- ・保護者との円滑なコミュニケーション能力

④ チームマリアの推進（組織力の向上）

さまざまな教育・保育課題を乗り越えるために、教職員の連携・協力体制は不可欠である。今後も「チームマリア」として、子ども一人ひとりに寄り添った保育を目指したい。

3. 教育・保育活動の充実

① キリスト教の教えを基にした保育

日常の保育や園行事でのお祈りを大事にしたり、年長児の「神様のお話の時間」、各クラスの「聖劇」を実施したりすることを通して、神様の存在を身近に感じる事ができた。また、学年末には保護者を交えての「感謝の集い」を実施し、愛されている自分に気づき、神様や家族への感謝の気持ちを持つ事ができた。七五三では、神父様の祝福を受けた。こうした取り組みを通して、カトリック園としての保育の充実を図ることができた。

② モンテッソーリ教育

2024 年度もモンテッソーリ教育を軸に真摯に保育に取り組んだ。モンテッソーリ教育の考え方や教具の提供について、時には研修で分かち合いながら実践に取り組んだ。2024 年度も 1 名がモンテッソーリ教師資格を得た。2025 年度もさらに 1 名が教師資格講習を始める。そうした教員同士の専門性を高めるための切磋琢磨も生まれてきている。

③ 2024 年度の主な行事

予定していた以下の行事を全て実施することができた。

- 〈1 学期〉入園の日・親子遠足・プール遊び・キャンプ A 組（宿泊）
- 〈2 学期〉スポーツデー・園外保育・七五三・聖劇
- 〈3 学期〉園外保育・感謝の集い・卒園の日
- ・その他、避難訓練、内科検診、保育参観、懇談会

④ 教員研修

教師の資質向上のため、各個人が自己研鑽に努めるよう推進した。兵庫県私立幼稚園協会及び西宮市私立幼稚園協会の主催する研修や本園の取り組むモンテッソーリ教育に関わる研修、カトリック幼児教育協議会の主催するキリスト教研修、また本園にも在籍する発達の課題を抱える子どもたちに関わる研修などを紹介し、積極的に参加を促した。本年度実施したり、参加したりした主な研修は次の通りである。

- ・保育の関わるテーマを設定した「分かち合い」（本園研修担当）
- ・発達特性の理解と関わり方（西宮市つながり事業）
- ・保護者対応つながる学校園に（西宮市つながり事業）
- ・「発達におけるアセスメント」（公益社団法人 子どもの発達科学研究所）
- ・2024 年度「建学の精神」合同研修会「ケアと対話（シドノ斯的会話）の大切さ
- ・「令和を生きる子どもの心と発達～今と未来を見据えた保育とは」（西私幼）
- ・「幼児期の教育と小学校教育の接続～今後の幼児期に求められること～」（西私幼）
- ・「共主体の保育とは～子ども、保育者、保護者がワクワクする保育へ」（西私幼）
- ・深草子どもの家「モンテッソーリ教師養成コース」
- ・深草子どもの家 京都コース主催「モンテッソーリ教育講習会」
- ・兵私幼「子育て支援研修」
- ・カトリック園保育大会

4. 施設整備

（1）園内環境

① 芝生管理

メンテナンス業者と連携をしながら美しい緑の芝生を保つことができた。芝生は子どもたちの安全の維持、そしてマリア幼稚園の人気の一つでもある。今後も維持管理に努め

る。

② 園庭プロジェクト

安全面や過ごしやすさを常に意識し、園庭の維持管理を行った。

(2) 外壁フェンスの設置

かねてから懸案であった南側フェンスの改修に向けて計画を進めた。2025 年度夏に着工することとなった。

(5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
神戸市灘区青谷町	大学本館	6,559 m ²
	大学図書館	4,047 m ²
	中高校舎、講堂	10,627 m ²
	中高食堂ロッカー棟	659 m ²
	体育館	1,675 m ²
	小学校北館	2,149 m ²
	小学校南館	3,316 m ²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m ²

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

2024 年度は小学校南館の内部改修及び連絡通路設置工事を実施し、完了した。